

てがたんレポート Vol. 4 No. 5 (2007年5月：通巻38号)

- ・ 観察コースと内容：鳥博→3.5.15号線→藤棚→遊歩道→滝下広場→遊歩道→親水広場まとめとお知らせ後解散)
- ・ 観察日時/天気：2007年5月12日(土) 10:00~12:00/晴れ
- ・ 参加人数：45人(うち小学生3人)
- ・ 観察案内&記録ボランティア・スタッフ：12人(敬称略・五十音順)：青木義尚、伊東茂子、小野寺喜四郎、木村稔、小泉伸夫、中野久夫、野口幸子、弘貫さと子、松原昭福、村松定雄、水上香苗、湯瀬一栄
- ・ 鳥博職員：時田賢一、岡 廣志、斉藤安行

・ 今回のテーマ
鳥の子育て
・ 案内人
木村 稔さん

観察記録—5月に観察した生き物リスト—

★観察した生き物

【鳥】 カイツブリ、カワウ、チュウサギ(田植え後の田んぼでドジョウを食べる)、コサギ、アオサギ、カルガモ、コジュケイ(声)、キジ(母衣打ち)、バン、オオバン、タマシギ(雌雄が放棄水田の二番穂の中)、コチドリ、オオジシギ、ユリカモメ(繁殖羽)、セグロカモメ、キジバト、カワセミ、コゲラ、ヒバリ(声)、ツバメ(巣内ピナ確認、巣材運び観察)、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ(声)、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス(巣内ピナ確認)、ハシブトガラス、(外来種や家禽)コバクチョウ、バリケン、ドバト

【両生類】 アマガエル、トウキョウダルマガエル(声)、ウシガエル(声)

【昆虫】

- ・ チョウの仲間：モンシロチョウ、スジグロシロチョウ、モンキチョウ、アゲハ、キアゲハ、ナガサキアゲハ、アオスジアゲハ、ヒメジャノメ、ヒメアカタテハ、サトキマダラヒカゲ、ヤマトシジミ、オオミノガ、マイマイガの卵塊、オビカレハの幼虫
- ・ バッタの仲間：ヒシバッタ、ヒメギス幼虫
- ・ 甲虫の仲間：コガタルリハムシ、クロウリハムシ、ナナホシテントウ、ナミテントウ、コアオハナムグリ、ジョウカイボンの仲間、ゴミムシの仲間、オオヒラタシデムシ
- ・ ハチの仲間：クロマルハナバチ(ナワシロイチゴで吸蜜)
- ・ カメムシの仲間：マルカメムシ

【花】 ナガミヒナゲシ、マツバウンラン、ツタバウンラン、ムシクサ、ツメクサ、ノミノツヅリ、ノミノフスマ、カタバミ、アカカタバミ、オッタチカタバミ、オニノゲシ、ノゲシ、オオジシバリ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ、ヤブジラミ、オヤブジラミ、ヘビイチゴ、ハルジオン、アカバナユウゲショウ、コマツヨイグサ、オニタビラコ、ハハコグサ、ウラジロチチコグサ、ムラサキケマン、ニワゼキショウ、キショウブ、アゼナルコ、ゴウソ、ウマスゲ、アゼスゲ、イヌムギ、ヒメスイバ、ギシギシの仲間、ムラサキサギゴケ、トキワハゼ、シロツメクサ、コヒルガオ、ゼニバアオイ、ゲンゲ、ケキツネノボタン、タガラシ、スズメノテッポウ、ヒメオドリコソウ、カラスノエンドウ、オランダミミナグサ、カキドオシ、オランダカラシナ

【樹の花】 ミカン(植栽)、ノイバラ、ナワシロイチゴ、シラカシ、ハナミズキ(植栽)、ハリエンジュ(植栽)、フジ(植栽)、ツツジ(植栽)、ミズキ(植栽)、イボタノキ(植栽)、エゴ(植栽)、マルバシャリンバイ(植栽)

【実】 ヘビイチゴ

5月の観察アルバム



オス

⑦

'ひこばえ'の残る休耕田の中に、タマシギの雌雄がいました。
どこにいる？
円内は昨年の手賀川沿いの田んぼの中に潜んでいたもの。
タマシギは、鳥の世界では珍しい一妻多夫の婚姻システム。

市民スタッフの木村さんが、ハシボソガラスの巣を実際に観察しながら、カラスの子育てのお話をしてくださいました。



メス



外部形態でハシボソガラスの雌雄は見分けられませんが、この巣の雌(抱卵していたことで判断)は、たまたま右翼の第2~3次列風切付近が事故で欠損していたので、見分けられました。
したがって、右の写真が雌、左の写真が雄。

背面からの画像



空巣!!(5/28)

ニセアカシアの樹上に営巣したハシボソガラス。巣立ちが近いと思われる4羽の雛が見えます。巣内右上は、親鳥です。その後、5/24に巣内の雛を確認しましたが、5/28には空巣!でした。この間に巣立ったものと思われます。



巣の近くで採餌するコサギを追い出すハシボソガラス

④



市民農園付近になわばりをかまえる雄キジ。

⑤



巣材の泥と枯れ草を拾い集めるツバメ。

⑥



さえずるシジュウカラの雄



コゲラが営巣しようと開けた穴。結局利用されませんでした。円内は、4月9日の様子。



・上: ドジョウをとらえたチュウサギ
・下: コサギ(右)とチュウサギ(左)が、並んで餌をさがしていました。

*てがたん4月号「訂正+α」



てがたん4月号レポートのヘイチゴとヤブヘイチゴの図版が上下逆でした。訂正します。
上がヘイチゴ、下がヤブヘイチゴ。
ツブツブ一個一個の表面のちがいを虫眼鏡で比べてみましょう。ヘイチゴの方は「でこぼこ」、ヤブヘイチゴの方は「つるつる」しています。

ヘイチゴの花にはたくさんの雄しべと雌しべがあります。雄しべや雌しべは花床から伸びていますが、この花床が肥大した部分が果実のように見えるので偽の果実=偽果(ぎか)と呼びます。一方、本当の果実の方は、偽果の表面の果皮が乾燥して痩せ細ったつぶつぶなので、瘦果(そうか)と呼びます。